

【シラバスⅡ】令和8年度 評価規準

教科名 理科		科目名 (学)化学基礎特論		
時期・単元	内容のまとめ	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
(5月) 3章 酸と塩基	3章 2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の定義を理解し、中和滴定の量的関係を理解している。 pHの指標の実用性を理解している。 実験器具の取り扱いができ、濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を考察できる。 酸・塩基の強弱とpHの観察、実験などを通し、科学的に考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物質のpHを測定して考察するなど、身近な現象と酸塩基反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
(7月) 3章 酸化還元反応	3章 3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解している。 金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見出し、酸化還元反応を論理的に考察できる。 実用電池や金属の製錬を論理的に考察し、科学的に判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、共通性を意欲的に探究する。 身近な現象と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
(10月) 1章 物質の状態と平衡	1章1節 状態変化 2節 固体の構造 3節 気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解している。 気体の体積と圧力や温度変化との関係を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化について、粒子の運動と関連付けて判断でき、状態間の平衡について、気液平衡や蒸気圧を例に考察できる。 気体の法則について化学的に考察しその考えを説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気体を示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測しようとする。
((12月) 1章 物質の状態と平衡	1章4節 溶液	<ul style="list-style-type: none"> 溶液の性質の法則性、コロイド溶液に関する事象について理解し、知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 希薄溶液が示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測しようとする。
(3月) 2章 物質の変化と平衡 4章 有機化合物	2章1節 化学反応と熱・光エネルギー 4章1節 有機化合物とその構造 2節 脂肪族炭化水素	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応における熱や光の出入りは、化学エネルギーの差から生じる事を理解している。 ヘスの法則について理解している。 有機化合物の成分元素の確認や組成式・分子式・構造式の決定について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応に伴ってエネルギーの出入りがあることを推論することができる。また、導き出した考えを表現できる。 炭化水素の性質や反応性が構造に特徴づけられることを見出し、構造異性体、鏡像異性体などを論理的に考察し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応に伴うさまざまなエネルギーの出入りがあることを意欲的に探究・考察しようとする。 有機化合物に関する性質や反応に関する事象・現象に関心をもち、その構造と性質や反応性の関係について意欲的に探究しようとする。
主な評価方法		定期考査、提出物など	定期考査、提出物など	定期考査、出席状況など
その他		化学基礎とともに総合的に評価する。		